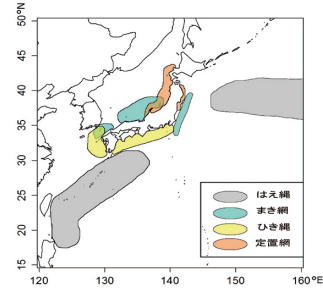


クロマグロ 太平洋

Pacific Bluefin Tuna, *Thunnus orientalis*



(*) 写真の太平洋クロマグロの尾叉長は、左から順に約 250 cm、60 cm、20 cm。



日本周辺における太平洋クロマグロの主な漁場分布

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)
全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近一年間の動き

2012年の総漁獲量は約1.5万トンで(暫定値の一部含む)、過去5年間(2007~2011年)の平均漁獲量2.1万トンを大幅に下回った。日本の2012年の漁獲量は6,300トンで、1952年以降の最低を記録した。漁法別にみると、ひき縄が1952年以降で2番目に少ない570トン、まき網が2400トンで大きく減少した一方、定置網は1,800トンで堅調であった。日本以外の2012年の漁獲量は、メキシコは、堅調であったが、2012年からIATTCが史上初めて太平洋クロマグロに導入した漁獲量規制により6,667トンであった。韓国は1,400トン(2007~2011年の平均は1,200トン)、台湾はさらに減少し210トンで、2007~2011年の平均(800トン)の約3分の1に減少した。米国は2011年に引き続き好調で2002年以降で最大となる660トンであった。資源評価はISCによって行われ、近年の親魚資源の減少、未成魚を中心に漁獲圧が増加していること、資源評価の最近年(2010年)の親魚資源量が評価期間(1952~2010年)の最低レベルに近いとされた。将来予測は、将来の加入が、過去の加入と同様の水準であれば管理措置による漁獲圧の削減とWCPFC、IATTCの規制の管理措置の確実な実施及び日本の自主的な漁獲制限の継続により親魚増大が期待されるとした。その後、2013年7月にISCは、最新の日本のはん縄、ひき縄CPUEの動向と、直近の漁業の動向、追加の将来予測結果を基に、直近の加入が非常に低下している可能性があり、この傾向が、資源の増加に悪影響を及ぼす事を警告した。WCPFCでは、2013年12月に2014年に努力量が2002~2004年レベルを下回るよう管理すること、未成魚(0~3歳)に対する漁獲量が2002~2004年の平均レベルを15%下回るように管理することが合意された。一方、IATTCは、2013年6月に2014年の東部太平洋での商業漁業による漁獲を5,000トンに決定した。日本は、2010年に国が公表した「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」及びWCPFCの保存管理措置に基づき、さまざまな管理措置を実施している。内容は、大中型まき網のクロマグロ総漁獲量の制限、クロマグロを採捕するひき縄、釣り等の従来の自由漁業の届出制の導入と2014年4月からの承認制への移行、漁獲実績の報告義務づけ、クロマグロ養殖場の登録と養殖実績報告、クロマグロ養殖場の数やいけすの規模の拡大の制限並びに韓国産とメキシコ産輸入クロマグロの漁獲情報等の報告の取組みである。

生物学的特性

- 寿命：20歳以上
- 成熟開始年齢：3歳
- 産卵期・産卵場：日本南方~台湾東沖で4~7月、日本海で7~8月
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他
- 捕食者：まぐろ類、さめ類、シャチ

利用・用途

刺身・すしなど

漁業の特徴

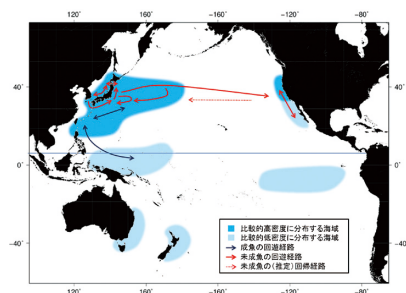
日本の沿岸と太平洋の沖合で、様々な漁法で漁獲されている。沿岸では、ひき縄や定置網により周年にわたり未成魚が、沖合ではまき網により夏季から秋季に未成魚と成魚が漁獲されている。また、春季の台湾東沖から奄美諸島周辺域にかけて、はん縄で成魚が漁獲されている。1990年以降、まき網による未成魚の漁獲が東シナ海から日本海南西部で増加している。我が国以外では、主として、日本海南西部で韓国が春季から夏季にかけてまき網で漁獲しており、東部太平洋ではメキシコが5~10月にまき網で漁獲している。メキシコの漁獲したクロマグロのほとんどが養殖原魚となっている。

漁業資源の動向

2000年代以降の漁獲量は1.5~2.9万トンの間で変動しているが、2000年代半ば以降は、概ね減少傾向にある。2008~2012年の漁獲量は、北西太平洋で1~2万トン、東部太平洋で0.3~0.8万トンと推定されている。2000年代半ばまでの安定した漁獲は、加入の水準が比較的高かったこと、メキシコ及び日本での養殖の発展等による需要の増加に支えられ、クロマグロを狙う努力量が安定して増加したことが原因であると推測される。2000年代半ば以降の漁獲は、大型成魚を漁獲するはん縄の漁獲は親魚資源の減少とともに継続的に減少を続けている。また、まき網による小型成魚の漁獲は減少し、その後、加入変動により傾向ははっきりしないものの未成魚の漁獲も減少している。さらに2011年以降は、WCPFC、IATTCによる保有管理措置のもとにある。

資源状態

ISCが2012年11月に資源評価では、1952~2010年までの資源量が推定された。最近年の漁獲圧(2007~2009年)は、基準年(2002~2004年)の漁獲圧に比べて、0歳魚で4%、1歳魚で17%、2歳魚で8%、3歳魚で41%、4歳魚以上で10%増加した。また、現在(2010年)の資源状態は、評価期間(1952~2010年)に推定された資源量の最低レベルに近く、最近年の漁獲圧は、検討した全ての管理基準を上回っている。将来の漁獲圧を2002~2004年のレベルまで減らした上で、WCPFC、IATTCの管理措置を確実に実施し、日本が自主的な漁獲制限を継続した場合、2030年までに親魚資源量は実際の将来の加入変動により幅はあるが平均して8.3万トンまで増加すると期待された。さらに、2013年7月のISC本会議で、前回の資源評価で使用した以降の漁業情報を元に保存勧告の見直しを行った。最新の日本のはん縄、ひき縄CPUEの動向、2012年の日本の未成魚を漁獲する漁業の深刻な不漁を背景に、将来の低加入の可能性を考慮すると、期待されていたほどの資源の回復が望めないとして漁獲圧の更なる削減、加入を早期に把握する重要性の指摘等を骨子とする保存勧告の改訂が行われた。



太平洋クロマグロの分布と回遊の概念図

管理方策

2013 年 12 月の WCPFC 年次会合では、2014 年の保存管理措置として、太平洋クロマグロの漁獲努力量を 2002～2004 年水準よりも削減し、未成魚（0～3 歳）の漁獲量を 2002～2004 年平均漁獲量から少なくとも 15% 削減することが合意された。2013 年 6 月に開催された IATTC 年次会合では、東部太平洋の商業漁業に対して 2014 年に 5,000 トンの漁獲枠が設定された。国内では、水産庁が 2010 年 5 月に、太平洋クロマグロの管理強化を図るため、未成魚の漁獲を抑制・削減し、大きく育ててから獲ること、親魚資源量が中長期的に適切な範囲内に維持され、これまでの最低水準を下回らないよう管理することを方針とする「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」を公表した。これに基づき、2011 年 4 月から、大中型まき網のクロマグロ総漁獲量を制限する取組及びクロマグロを採捕するひき縄、釣り等の沿岸漁業を対象に自由漁業の届出制の導入と漁獲実績の報告が義務づけられたほか、2011 年 1 月からクロマグロ養殖場の登録及び 2011 年 2 月からメキシコ産輸入クロマグロの漁獲証明制度の導入が開始された。さらに、2012 年 10 月から養殖場の数や生け簀の規模を現状以上に拡大しないこととされた。2014 年 4 月以降は従来のクロマグロを採捕するひき縄、釣り等の沿岸漁業を対象に 2011 年以降に導入された届出制は承認制へ移行する。

資源管理方策まとめ

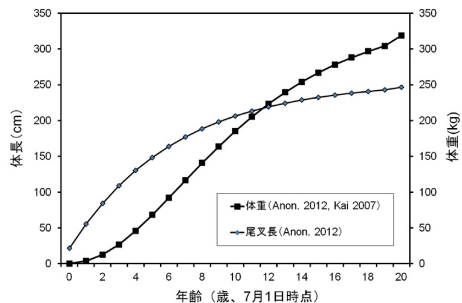
- 水産庁が 2010 年 5 月に、太平洋クロマグロの管理強化を図るため、未成魚の漁獲を抑制・削減し、大きく育ててから獲ること、親魚資源量が中長期的に適切な範囲内に維持され、これまでの最低水準を下回らないよう管理することを方針とする「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」を公表した。
- 2013 年 12 月の WCPFC 年次会合では、2014 年の保存管理措置として、太平洋クロマグロの漁獲努力量を 2002～2004 年水準よりも削減し、未成魚（0～3 歳）の漁獲量を 2002～2004 年平均漁獲量から少なくとも 15% 削減することが合意された。
- IATTC は 2013 年 6 月に 2014 年の東部太平洋での商業漁業による漁獲枠を 5,000 トンに制限
- 日本は、大中型まき網のクロマグロ総漁獲量の制限、クロマグロを採捕するひき縄、釣り等の従来の自由漁業の届出制の導入と 2014 年 4 月からの承認制への移行、漁獲実績の報告義務づけ、クロマグロ養殖場の登録と養殖実績報告、クロマグロ養殖場の数や生け簀の規模の拡大の制限並びに韓国産とメキシコ産輸入クロマグロの漁獲情報等の報告の取組みを実施している。

資源評価まとめ

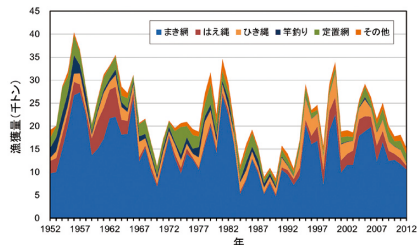
- ISC が資源評価を実施。
- 資源評価は統合モデルの Stock Synthesis (SS) を用いている。
- 現在（2010 年）の資源状態は、推定された 1952～2010 年の資源量の最低レベルに近い。
- 2007～2009 年の漁獲圧が継続すれば、現在の水準からの増加は見込めない。
- 直近の加入は低下しており、期待された資源の増加が望めない可能性がある。

クロマグロ（太平洋）の資源の現況（要約表）

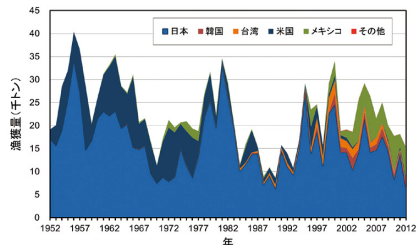
| | |
|----------------------|--|
| 資源水準 | 低 位 |
| 資源動向 | 減 少 |
| 世界の漁獲量 （最近 5 年間） | 1.5～2.5 万トン 平均：1.9 万トン （2008～2012 年） |
| 我が国の漁獲量 （最近 5 年間） | 0.6～1.7 万トン 平均：1.2 万トン （2008～2012 年） |



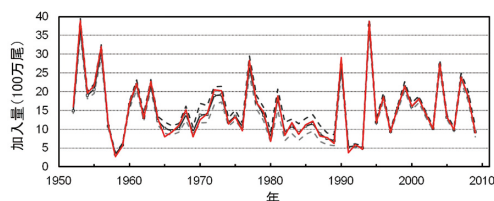
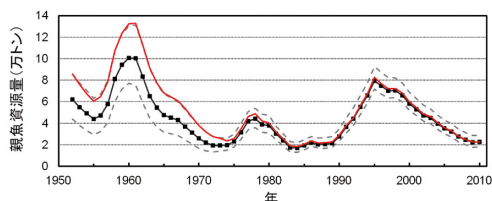
太平洋クロマグロの尾叉長・体重と年齢との関係



漁法別漁獲量の推移（1952～2012 年）



国別漁獲量の推移（1952～2012 年）



資源評価で推定された太平洋クロマグロの親魚資源量（上図）、加入量（下図）の点推定値及びブートストラップによる中央値と 90% 信頼区間